

東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター
潮田ヒューマニティーズイニシアティブ「公募研究 A」成果報告書

研究課題(和文): 関東大震災における東大医学部外科の役割

研究課題(英文): The Great Kanto Earthquake (1923) and the Roles of the Surgery Section of the Medical School of the University of Tokyo

申請者名・所属先: 鈴木晃仁

海外招聘者名: なし

1. 研究の目的

1923年9月1日の関東大震災の後に外科の患者に対応した東大医学部第二外科の記録が残されている。これまで存在が知られていなかった史料を読み、震災に対する医療の構造を問う。

2. 研究開始当初の背景

東大旧第二外科が整理された状態で保存されている史料のうち、当直日誌と患者の病歴という二種類の史料を撮影し、関東大震災時の東大の外科医の体制と、そこで治療された患者の経験の二つを分析する。

3. 研究の方法

研究を助けてもらうために、日本史の鈴木淳、ドイツ文学の大宮勤一郎、社会学の赤林学、西洋史の勝田俊輔の4人の教員と共同した。日本語の史料とドイツ語の史料を読み解くために、合計4人の大学院生に依頼してすぐに読むことができる史料を作り出した。

4. 研究成果

中間報告と総合報告を2022年3月と9月に行った。前者は鈴木淳と鈴木晃仁の講演と廣川和花と北村紗衣によるコメント、後者は赤林学と鈴木晃仁の講演と高林陽展と中尾麻衣香によるコメントである。前者はブックレットとして刊行され、後者も公開に向かっている。

5. 主な発表論文等

〔図書〕

『関東大震災と東大医学部第二外科: 東京大学ヒューマニティーズセンター オープンセミナー第57回より』

<https://repository.dl.itc.u->

[tokyo.ac.jp/search?page=1&size=100&sort=controlnumber&search_type=2&q=1661754947641×tamp=1667445569.779608](https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/search?page=1&size=100&sort=controlnumber&search_type=2&q=1661754947641×tamp=1667445569.779608)